

2019.8.3-4

FUJI

Round

05

final



## 不利な状況を打破するレース戦略 しかし幸運は訪れずに15位



真夏の富士スピードウェイで行われた第5戦。通常のSUPER GTよりも2.7倍の距離となる500マイル(800km)で、4度のピットストップ&ドライバー交代が義務づけられるなど、いつもとは少し勝手が違うレースになっています。またシリーズポイントも通常より多く与えられるため、ポイントを積み重ねるには狙い目です。

前日の予選を25位で終えたK-tunes Racingにとって、正攻法で戦うにはパフォーマンスが不足しているのは明らかでした。マシンのバランスなどには全く問題ないものの、気温が高いことでライバル達に対してエンジンのパワーが不足していました。1.4kmの長いストレートやタイト、コーナーを駆け上がっていくコース後半といった場面では、エンジンパワーが大きく影響することになります。

そこでチームが採用したのは、スタート直後の1周目終了時点でドライバー交代する、という戦略でした。ピットストップによって遅れますが、もしレース序盤にセーフティカーとなった場合にはその差がゼロになります。つまりピッ





トストップを1度済ませた、というアドバンテージを得ることができます。1度のピットストップでのロスタイムは、ほぼ1周分なので、セーフティカーのタイミングによっては大逆転も可能になります。

スタートドライバーは新田守男選手。予定通り1周終了時点で真っ先にピットストップを行い、阪口晴南選手へと交代。ここから2人のドライバーが40周×2を走らせて、残り3度のピットストップを消化し、160周強のレースを走る作戦です。

しかしセーフティカーが最初に入ったのは66周目。すでにドライバーは新田守男選手へと交代し、周回遅れに。それではトップグループとの差を詰めることはできません。

最終的に15位でフィニッシュ。入賞はできなかったものの、マシンはトラブルもなく走り切り、また4度のピットストップもミスなく終わりました。この経験がチーム力を高め、シーズン後半のチャンピオン争いに良い影響を与えることでしょう。



2019 AUTOBACS SUPER GT Round5 FUJI GT 500mile RACE  
 富士スピードウェイ 2019年8月4日 天候：晴れ 路面：Dry  
**final**

Po	No	Machine	Driver	Laps	Best Lap	Diff.(sec)	Tire	WH
1	87	T-DASH ランボルギーニ GT3 Lamborghini HURACAN GT3 / DFJ	高橋 翼 アンドレ・クート 藤波 清斗	163	1'40.288	4:54'37.976	YH	8
2	52	埼玉トヨペットGB マークX MC TOYOTA MARK X MC / GTA V8	脇阪 薫一 吉田 広樹	162	1'39.773	1 Lap	BS	11
3	34	Modulo KENWOOD NSX GT3 Honda NSX GT3 / JNC1	道上 龍 大津 弘樹	162	1'39.688	1 Lap	YH	12
4	18	UPGARAGE NSX GT3 Honda NSX GT3 / JNC1	小林 崇志 松浦 孝亮 山田 真之亮	162	1'40.230	1 Lap	YH	
15	96	K-tunes RC F GT3 LEXUS RC F GT3 / ZUR-GS	新田 守男 阪口 晴南	161	1'40.488	2 Laps	BS	60

ファステストラップ：1'39.087 No.25 HOPPY 86 MC / 松井 孝允

## 監督・選手コメント



Team Director  
影山正彦

©GTA

8km/hというトップスピードの差があって、辛いレースでしたね。戦略的にチャレンジしたんですが、チャンスは来なかったです。それでもチームの士気は高く、それが今後のレース結果につながると思っています。



Driver  
新田守男

©GTA

60kgのウエイト、そして暑さの影響で、パワーが足りなかったですね。できれば入賞してポイントを、と思っていましたが、残念な結果でした。大きなミスもなく、レースを終えることができたのが、収穫だと思います。

